



一般社団法人 日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL:03-3593-0139
FAX:03-3593-0138
URL:www.butstryu.or.jp

News Release

平成30年4月18日

第13回「物流連懇談会」を開催

(一社)日本物流団体連合会(田村修二会長)は、4月13日(金)、東京都千代田区の学士会館において、第13回「物流連懇談会」を開催した。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われており、今回は、株式会社日立物流 代表執行役社長 中谷 康夫 氏より『未知に挑む。』と題する講演が行われた。参加者は、会員企業の代表者や幹部など約100名にのぼった。

冒頭、田村物流連会長による挨拶の後、講演会に入った。本題に入る前に中谷社長から、今回の演題である『未知に挑む。』については、先見性、先進性、前例のないことに挑戦し、ロジスティクスの革新に取り組んでいく会社の決意の表明であるとの説明があった。

講演は、最初に会社の紹介が行われ、3PL、フレイトフォワーディング、重量・機工の事業が主たる事業であり、2007年頃から積極的にM&Aを行ってきた現在の主要グループ会社のそれぞれの特長が述べられた。

その後、100年に一度と言われる第四次産業革命に触れ、ITの進化とグローバル化がもたらす産業構造変革に対して従来の事業の延長線では立ち行かなくなるという危機感がスマートロジスティクスを積極的に推進している理由であるとの説明があり、現在日立物流が取り組むスマートロジスティクスの事例について、動画を交えて詳しい説明があった。

まず、ロジスティクスにおけるイノベーションの変遷の中、IoTの進化による「可視化」「省人化」「標準化」「最適化」をいかにして作り出していくのか、そのためにはオープンイノベーションによる「協創による次世代で勝てる新事業形態を創出」するという説明がなされた。

さらに、そのイメージを具現化し、既に実践配備している「Racrew(ラックル)」、「自律型無人フォークリフト」、「画像認識デパレタイザー」、「バーコード一括読取自動検品システム」、について、映像を交えた紹介があった。またR&Dセンターでは、「双腕ピックロボ」、「RFID」「ドローン」等々、最新技術を豊富に取り入れた次世代型システムの開発を行っているとの説明があった。

また、日立物流の海外事業についても説明があり、最後に、IoT、AI技術の発展によって、将来物流会社の地位が他のプレーヤーに取って代わられるのではという懸念については、SCMの中で中心にある物流業界がステイタスポジションにあり、周囲と手を組むことで大きな発展の可能性を秘めているとの力強い発言で締めくくられた。

以上
事務局 西城



田村会長の挨拶



講演する中谷社長



講演会風景